

陸上運動部部便り

2009年7月号

四大戦

目次

1	四大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	12
2	2009年度部内5傑 2009.7.5現在	16
3	自己記録更新者一覧 2008.6.1~7.5	17
4	主務より	18
4.1	応援OB・OG紹介	18
4.2	行事予定	18
4.3	連絡先(慶弔等)	18

1 四大戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

-男子:課題を残しての3位、女子:本領発揮で2位-

男子第34回、女子第15回となる国立四大学対校戦は夢の島競技場で、心配された降雨もなくまずまずのコンディションの中行われました。七大戦を3週間後に控え、課題をクリアして記録も出して自信をつけるべく臨みました。

男子は、最初の3000mSCで、山崎(4年長チーフ)がスローペースながら9'45"17と3秒ほどの自己記録で2位獲得と良い滑り出しかと思われましたが、同時進行の幅跳びで主将廣瀬が足を痛めてしまい棄権に終わるなどチグハグなスタートとなりました。その後も110mHで酒谷(3年)が最終ハードルから追い込んでの15"07での優

勝、三段跳びで定金(3年)が14m12とインカレ標準Bを突破の2位と華々しい記録も出て、4種目で優勝は果たしましたが、両リレーが最下位で得点なしに終わったりなど残念な結果もでてしまい、結局フィールドで実力者が揃ってきた群大に後塵を押し3位に沈みました。それでも、小粒小粒と言いながらも昨年と同様の複数入賞種目を挙げ、また、1年生選手がしっかり競技できたのは収穫でした。また、オープン5000mで院生が箱根予選会の参加標準記録切りを狙って多数参加し、このタイミングで今年も院チームの予選会参加を決めたのは立派です。

他方、女子は、院生もフルに参加し、選手を出せなかった1500m以外全種目で得点しての計48点獲得で、埼大に4点差をつけ、99年以来の2位獲得を果たしました。特に100mHで久保木(1年)の2位(15"32)と、女子主将の日下(4年)が800mで念願の2'18台を出したことはチームに勢いをつけました。また、数種目で七大に向けて実力を見せて欲しいと思っていた選手が良いパフォーマンスを発揮しましたので、本番は、乞うご期待です。また、今回の2位の立役者は、対校戦で勝とうという姿勢で専門外も含め多種目出場した院生の高橋(M1)です。昨年までも人員不足で女子部員全員で専門外種目に出場してきたパターンを充実した戦力でやった形ではありますが、おそらく、しばらくは今の1年生を中心に質量ともに充実したチーム編成となるでしょうが、「対校戦は勝つためのもの」という今回の姿勢を忘れないでいてほしいと思います。

さて、男子は不安要素が抜けきれませんが、基本的なことをしっかり見直して本番を迎えたいと思います。女子は七大戦では院生は使えませんが、今回と種目も違いますが、今日の結果を再現できれば相当やれると思っています。予想

は予想であり、本番で出た結果が実力ですので、当日さらに上乘せができるよう、残された時間で、やれることは全てやっていきたいと思いません。変わらぬご声援をお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 廣瀬彬

四大戦はここ数年で最悪の3位。今年は例年より多少地力の差が大きかったものの、実力を出し切れれば、学芸大には及ばずとも例年通り2位は確保できたはずでした。しかし七大戦に向けた練習の疲れが抜けていない選手、私自身も含め怪我が完治していない選手が数人おり、実力を出し切れませんでした。陸上競技は結果がすべてであり、今回実力を出せなかった選手はしっかり反省し、原因の究明、今後の練習の再考をしなければなりません。選手間で密に意見交換をして、七大戦ではこのようなことがないようにしたいと思います。全体の結果は芳しいものではありませんでしたが、関カレ以降自己ベストを連発している酒谷(3年)、三段跳で新たに関カレB標準を突破した定金(3年)、徐々に体のキレを戻してきている数人の一年生など、個人を見ると決して悲観的要素ばかりではなく、雰囲気は悪くありません。七大戦まであと3週間、部員全員が仲間を信じ、自分がやるべきことをしっかりやれば、まだまだ実力はあがります。主幹校としての意地とプライドをかけて、部員一同精一杯頑張りますので、ご指導ご支援のほど宜しくお願い致します。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

女子は総合2位と近年では稀な好成績で、七大戦に向けて弾みがつきました。例年3点制で行われていたのが6点制になったことと、部員数が増えたことに依る部分も大きいですが、個々のパフォーマンスを見ても満足のいくものだったと思います。主戦力の3、4年生も好調で、良い仕上がりを見せています。また、新たに2名のデビュー戦もあった1年生達も積極的な試合をしており、男子も含めチーム全体の良い刺激

となっています。良かった中でも課題はありますので、修正してさらに良いパフォーマンスができるよう、最後の調整に力を入れていきたいと思いません。一同がんばりますので、七大戦も応援よろしくお願いたします。

1.4 試合経過

トラック

10:00 男子 3000mSC 決勝

山崎(4年)、青木(2年)の出場。山崎は先週の1000m×5で調子が悪かったが、一週間で疲れを抜いてきた。青木は東海長の5000mで大学ベストを出すなど、調子は上向きである。心配されていた雨は降らず、風も弱かったが、少し蒸し暑い中でのレースとなった。なお、埼玉大が1人棄権し、出場選手は7人になった。

前半はスローペース。山崎は集団の前の方、青木は後ろの方で走る。群馬大が1人遅れ始めるが、その他の6人は3'17"で1000mを通過。やがてペースが少し上がり、集団は長細くなっていく。山崎と群馬大の三澤が先頭、その後ろに学芸大の三上と牛越、そして青木と埼玉大の須貝が続く。1500m付近から、青木と須貝が先頭から大きく遅れ始め、1700mあたりでは三澤がさらにペースを上げ、牛越も遅れ始める。山崎、三上は三澤の後ろに付く。2000mの通過は、山崎が6'33"、青木が6'41"であった。その後、山崎は先頭に立とうと試みるが、三澤は簡単には引き下がらない。ラスト1周で三澤がスパートをかけて三上は引き離され、山崎は付こうとするが徐々に差は開き、9'45"17の2位でフィニッシュ。青木はラストでスパートを見せ、ゴール直前で牛越を抜き、9'58"45の4位だった。2人で8点を稼ぎ、山崎は自己ベストであるが、まだ2人とも万全の走りではない。山崎は終盤で先頭に立てずラストでは離されたこと、青木は中盤でペー

スが落ちたことが反省点である。七大戦ではこれらをうまく修正し、入賞、優勝を勝ち取ってくれることが期待される。

10:15 男子 100m 決勝

1レーンに都井(4年)、2レーンに春日(2年)の出場。七大戦に向けて順調に調子を上げている春日は自己ベストが期待される一方、怪我の不安もあった。都井も先日行われた国公立戦で好タイムを出しており、同じく自己ベストが期待された。短距離陣としてはここで点を稼いでおきたいところだ。

スタート。両者とも良いスタートを切る。しかし、10m地点あたりで、春日が身体のプレから上手くスピードに乗れない。更に、隣の3レーンの選手は徐々に徐々にスピードに乗り、春日を引き離していく。一方の都井も上手くスピードに乗れないが、なんとか食らいついていた。50m通過時点では、彼ら二人を含む4人が5位を争う展開になっていた。

レースが大きく動いたのは60m地点だった。上手くスピードに乗れなかった都井が遅れていき、中盤からスピードに乗り始めた春日が追い上げ、都井と春日の順位が逆転した。ここから春日は、前の二人に追いつくかと思われたが、追いつこうという焦りからか春日の身体の動きに乱れが見られ、追いつくことはできなかった。また、都井もなかなかスピードに乗れないままゴールした。結果、春日は11"42の7位、都井は11"51の8位であった。このとき風は-1.2mだった。終わってみると短距離として得点がなく、その点は残念だった、と言わざるを得ない。しかし来る七大戦に向けた課題が発見できたと考えれば、また違った見方ができる。今回のレースの反省を次に活かしたい。

10:35 女子 100m 決勝

2レーンに清水(4年)、7レーンに

大久保(4年)の出場。2人とも4年生であり、最後の七大戦に向けて良いスタートを切りたい。

清水は、スタートからあまりスピードに乗れなかった。先頭を走る選手に大きな差をつけられ、30m地点でおよそ4、5位という位置か。中間疾走はまずまずの走りを見せるが、いつものようなキレのある走りができず、4位の選手に離されていった。ラストはそのまま5位でゴールし、記録は13"58。大久保は、まずまずのスタートを見せるも、30m地点で既に6位の位置だった。中間、終盤ともに前の選手との差をつめることはできず、結局6位でフィニッシュ。このときの記録は、13"96であった。このレースの風は-0.4mであった。

両者とも、最悪のレースをしたというわけではなかったが、記録は平凡に終わってしまった。来る七大戦では、今回みつかった課題を修正し、大いに活躍されることを願うばかりだ。

10:55 男子 800m 決勝

坂井(4年)、渡邊(3年)の出場。空は曇っており、風はなく、蒸し暑い天候の中の試合となった。坂井は昨年のチャンピオンである上、5月の国公立戦で自己ベストを出したばかりであるので、注目が集まる。渡邊も5月で今季ベストを2回更新しており、調子を上げてきている。

号砲が鳴ると、5レーンの学芸大の選手の飛び出しに続いて、坂井は2番手、渡邊は4番手につけ、順調な出だしを見せる。300m地点にさしかかり、坂井が勝負を仕掛け、先頭に躍り出る。渡邊もそれに乗じて2周目で3番手へ進み出る。ところが、2周目のバックストレートで学芸大の2人と群馬大の1人が驚異的な追い上げを始め、坂井と渡邊を一気に抜き去る。渡邊は4番手に転落するもラストまで3番手に喰らいつくが、距離は縮まらず1'57"13

の4位でゴール。一方、坂井は550m地点からややペースダウンし、徐々に先頭集団から引き離され、1'58"89の6位でゴール。

今試合で、渡邊は再び今季ベストを更新することができた。七大戦では自己ベストの更新を期待したい。今回も去年と同じように早めにスパートをかけた坂井であったが、他校の選手もそれを切り返すだけの力を身につけていたことを実感した。残り3週間で多様なレース展開に対応する力をつけて、七大戦での好成績に繋げて欲しい。

11:15 女子 800m 決勝

日下(4年)、浜松(1年)の出場。学芸大の選手が一人抜けた実力をもっていたが、日下はもちろん浜松にも上位入賞が期待された。

予想通りスタートから学芸大の選手が飛び出した。日下は他の選手について行きながらレースを進めることはせず、250m過ぎから2番手にでた。浜松は現在の実力差を考えてか自分のペースで1周目を通過した。2周目以降も日下はスピードを落とさず、一人旅であるもののラストまで伸びのある走りをして初の18秒台を叩き出し、2'18"65の2位でゴール。浜松はラスト300辺りから辛そうではあったが、残り100mで前の選手を追い上げるもののわずかに及ばず2'32"88の6位でゴール。

日下は最近短距離の練習に参加することが多かったが、それがスピード強化となりベストが出たのであろう。七大までには持久力をつけさらに良い結果を期待したい。浜松はフォームにスピード感があり、練習量も順調につめているので七大では自己記録にせまるだけでなく、更新するようなタイムを期待したい。

11:30 男子 400m 決勝

梅雨らしい曇り空の中だったが雨は降らず、走るのには良好のコンディションだった四大戦。400mには1レーンに

川村(4年)、7レーンに大澤(1年)が出場。川村は練習不足、大澤は故障明け、など両者ともに調子を合わせる事ができてるのか不安があった。そうしたなか号砲とともにレースが展開...されるかと思えば本日三度目の機器不備により一時中断。やや遅れて再び号砲一発りスタート。序盤勝負の川村であるが今日はやや抑え目での出発。2レーンの選手に食いついていけるか。一方の大澤も、出だしはかなり抑えめだ。200m地点で2レーンの選手が勝負に出る。川村、食いついていきたいところだが、遅れをとってしまう。一方の大澤はいまだに飛ばせずにいるようだ。以前肉離れした恐怖からか、カーブではやや遠慮がちになっているように見える。後半の100m、川村、頑張っって食いついていきたいところだが、カーブをこえた大澤の猛追が始まる。前方にいる川村との距離をグングンと縮める。川村ここは逃げ切ってほしい。しかし大澤は止まらない。そしてラスト30mで川村を刺す。結果、大澤が先着し52"05の5位、川村は52"45の6位に終わった。芳しい成果は出せなかったものの、両者ともにこのあとのマイルに出るのでそこで名誉挽回に期待する。

11:40 女子 400m 決勝

4レーンに堀越(D3)の出場。日下の欠場によりこの種目唯一の出場となった堀越。昨季後半から積極的に短長種目にも取り組んでおり、格上の選手を相手に少しでも高い得点を獲得したいところである。

スタートから周りの選手に合わせかなり突っ込んで入るレースとなった。バックストレートでも快調にとばして2から3番手にこの時点についていた。200m地点を過ぎたあたりから先頭2人がさらにスピードを上げ離されるも、ここでも自分のペースを崩さず3番手につける。最後は学大の選手に追い上

げられるものの粘りの走りで順位を守り、64"22の3位でゴール。今回のレースは格上相手に始めから突っ込んで走り、後半きつかったものの耐えきることができ、3位を獲得できたということで本人にも良い経験になったであろう。

11:55 男子110mH 決勝

2レーンに増本(3年)、6レーンに酒谷(3年)の出場。天候は曇り、地面は濡れていて空気は湿気を含んでいるが、心地よい風が吹く。号砲が鳴る。スタートは横一線であるが、30m付近では酒谷が抜きこんでる。その後も酒谷がトップをひた走るが、60m付近から8レーンの選手がじりじり詰め寄ってくる。勝負はもつれ、2人はほぼ同時にゴールになだれ込む。8レーンが最後に酒谷をややかかわした印象があったが、トルソーをしっかりと決めた酒谷に軍配は上がった。同タイム着差ありの1位、記録は15"07の自己新記録でフィニッシュ。足をぶつけた台も多く不安定な走りであったが、そんな中で0"12の自己記録更新は酒谷の好調を物語る。七大戦でも活躍が期待される。増本は、風邪のため練習が不十分で状態が心配されたが、動きにキレがなく体も浮いてしまい、不安を露呈する結果となってしまった。6位で、記録は16"09であった。

12:10 女子100mH 決勝

6レーンに久保木(1年)、7レーンに高橋(M1)の出場。久保木は関東ICで17"00、国公立戦で16"00と徐々に本来の感覚を取り戻しつつある。高橋は久々の100mH出場となるが、提出記録は学習院時代の2006年に出した16"57。この遙か上をいきたい。実力では埼玉大の中嶋が頭ひとつ抜き出ている。中嶋をどこまで追い込むかも勝負のポイントだが、学芸大の2人にも足をすくわれぬようにしたい。

号砲が鳴る。中央の選手が好スター

トを切る中、外側の二人はやや出遅れた形で一台目を跨ぐ。そこから久保木が3台目までをうまくまとめ、リカバーして上位に食らいつく。高橋はインターバルでスピードを殺す苦しい走りとなり徐々に集団から遅れ始める。中盤から中嶋が抜きこんで2位争いがヒートアップ。久保木はハードリングからスピードを作り、7台目までに学芸大の岡野をかわす。この時内側から来た学芸大の田澤に一瞬先行されるが、田澤が9台目付近でスピードが落ちたのを見逃さず、コンパクトなハードリングで畳み込みすでのところで逆転しフィニッシュ。高橋は中盤以降追い上げるがOP選手との最下位争いに甘んじ、苦しんでフィニッシュ。久保木は15"32の2位、高橋は16"86の5位であった。このとき風は+1.1m。計7点を獲得した。

2人とも中盤からの追い込みは見るものがあっただけに、序盤の運び方には改善の余地がある。暫く100mHの対校戦はないが、関東ICに向けさらなる努力が必要となる。

12:20 男子1500m 決勝

池田(2年)、山田(2年)の出場。埼玉大の申請記録3'58"の選手が欠場したため、事前の持ちタイムでは山田が2番手、池田が5番手なので少しでも上を狙いたいところである。

スタートと同時に前半型の池田が積極的にとばし、山田がそれについて2人が前に出る展開になる。300mを過ぎたあたりで山田が前に出て入れ替わるが、依然として2人が先頭を走り、400mの通過は64"。そのまま2人が引っ張り、少し離れて他大の選手がつく展開が続き、800mの通過は2'11"。ここからようやく後ろの集団がスピードを上げ、2人の後ろにぴったりつくようになり、900mを過ぎたあたりでは池田が後ろの集団に呑み込まれてしまう。先頭山田の1000mの通過は2'45"。

池田はホームストレートでキツそうな走りになり離されてしまう。ラストの鐘が鳴るころには集団から離され5番手に後退。山田は依然として先頭を走り、1200mの通過は3'18"。ここからバックストレートで2番手の群馬大の選手が一気にスピードを上げ、山田は2番手に後退してしまう。山田はラストのカーブに入り、一度は仕掛けようとするもここは我慢。カーブ出口のラスト100mから驚異的なラストスパートを見せ、他大の選手につく暇すら与えず先頭に立ち4'04"36の自己ベストをマークし1位でゴール。池田は粘りの走りを見せたが、4'10"37の5位でゴール。山田は見事持ちタイム差を覆し自己ベストで優勝。素晴らしい駆け引きと勝負強さを見せ、七大戦へ向けて期待の持てるレースであった。池田はなんとか得点を死守したものの終盤での走りで課題の残るレースとなった。

12:35 女子 1500m 決勝

鈴木(2年)、日下(4年)がエントリーしていたが欠場した。日下は午後行われるリレーに専念する。鈴木には万全の状態七大戦に挑んでほしいところ。レースは3人で行われ、学芸大が11点を、群馬大が5点を獲得している。

12:45 男子 200m 決勝

1レーンに都井(4年)、8レーンに春日(2年)の出場。天気はよく気温も高い。向かっていた風も追い風に変わり、好記録が期待される中で競技は行われた。

都井は前半を抑え気味でスタート。後半での追い上げが期待されたが、前半スピードに乗りきれなかったため後半もスピードに乗りきれず、カーブでついた差を後半の直線で詰めることはできずそのまま23"08の8位でゴール。

一方の春日もスタートの反応は良かったが、痛めていた足を気にして前半は抑えてのスタート。コーナーを6、

7位で抜ける。後半は粘り強い走りで行きつづけるが、前方の集団についていくのが精一杯で22"53の6位でゴール。この時の風は+3.0mであった。

この種目での得点は1点。記録も追い風3.0mということ考えると、二人とも決して良くない。これから3週間、七大戦にむけてしっかりと調整を図ってほしい。

13:00 女子 200m 決勝

清水(4年)、堀越(D3)の出場。梅雨には似つかわしくない青空が見えるほどの快晴であったが、湿度が高く、決してコンディションがよいとは言えなかった。そんな中、チームの士気を上げるためにも、二人は上位入賞を狙う。

号砲が静まり返った競技場に鳴り響く。清水は前半から飛ばして入ることができ、内側の選手とラスト100mの中盤まで競り合うことができた。しかし力わずかに及ばず、ゴール直前で失速、後れを取ってしまった。記録は27"90の3位。一方の堀越は前半の立ち上がりで、周りからやや遅れる形でのスタート。このまま着いていけないかと思われたが、後半100mの直線ではしっかりと足が動き、走ることができ、4位でゴール。記録は28"22と、前半の走り如何でもっと伸びが期待される結果となる。この時の風は1.8mであった。

去年の四大戦において、堀越は27"52、清水は27"74を追い風5mながら出しており、今回の記録は追い風を考慮しても寂しい記録ではある。七大戦では更なる飛躍が期待される。

13:10 男子 400mH 決勝

1レーンに赤木(3年)、8レーンに高木(2年)の出場。前日の雨の予報とは裏腹に、太陽の照りつける中でのレースとなった。号砲と共に飛び出したのは高木。前半からキレのある動きで飛ばす。一方の赤木もまずまずのスタート。赤木は後半型であるので、後半の

伸びに期待できる。高木はそのままの勢いでバックストレートでも伸びやかな走りを見せる。赤木は5台目でタイミングが合わずに失速し、万事休すかと思われた。しかし、素晴らしい粘りを見せ、なんとか集団に食らいつく。ホームストレートでは赤木が期待通り猛然とスパートをかけそのまま勢いに乗り57"07の7位でフィニッシュ。一方の高木は、10台目で足を引っ掛けてしまいラストスパートで力を出し切れぬままフィニッシュした。だが、前半のスピードのおかげで56"41の5位で大学でのベストを更新した。両者ともにまずまずのレースではあったが、赤木は5台目で、高木は10台目でそれぞれ大きなミスをしていることを考えると、まだまだ記録は伸びるであろう。今後、七大戦などで両者の活躍に期待したい。

13:25 男子 5000mW 決勝

北沢(5年)、早川(3年)の出場。持ちタイムは5、6番手である上、北沢は怪我を押して完歩狙いのレースをするということで非常に厳しいレースが予想された。

レースは早いペースで始まりすぐに集団はばらけた。早川は5番手で後ろから落ちていく選手を拾っていくレースを、北沢は6番手で自分のペースでレースを進めていく。早川は1700mで群馬大の下田を抜き去り徐々に埼玉大の今川との差も詰めていく。その今川は3350m付近で失格となり早川は3番手に浮上。さらに前の学芸大の山口との差も詰めていく。ラスト1周に差し掛かった時点でその差は50m。抜くのではと思わせるペースで猛然と追い上げるが惜しくも届かず23'31"29の3位でゴール。しかし自己ベストを1'50"ほど更新し大健闘と言える内容であった。一方北沢はペースは落ちるもののしっかりと完歩し27'50"64の5位でゴール。自分の役目をきっちり果たし

た。

結果東大はこの種目で6点を獲得し両選手とも対校選手としての役目をしっかりと果たした。

14:10 男子 4 × 100mR 決勝

5レーンに中嶋(4年)、都井(4年)、春日(2年)、西田(3年)のオーダーで出場。今季好調の中嶋・西田はリレーにおいても活躍が期待される。また、今大会、短距離種目ではほぼ得点が奪えていないために、このリレー種目での得点奪取により他大に一矢報いたいところだ。しかし、そのうえで懸念材料としては、3人が既に同日100m,200mを走っていることによる疲労とバトンパスが挙げられる。これが果たしてどうなるか。

号砲とともにレースがスタート。1走の中嶋は持ち前のスタートで前の走者を追いかけて中々の快走を見せ、わずかながらリードを奪った。バトンもうまく渡り、難なく2走の都井につながる。続く都井も懸命に走るものの、やはり100m,200mからの連戦のためか疲れの見える走りの後半が伸びず、内側3レーンの群馬大・4レーンの東京学芸大に抜き去られてしまう。そしてここから追い上げるところ、という瞬間にアクシデントが起こった。なんとバトンパスの際に3走の春日に都井がなかなか追いつかないのである。結局あわやオーバーゾーンか、と思えるような位置でバトンがかろうじて渡った。しかし当然のことながら春日が失速したことで大きなタイムロスとなってしまう。後から聞いた話によると、春日が焦りからマークの手前でスタートしてしまい、それが今回の事態につながった、ということであった。続く3,4走の春日・西田は少々詰まり気味ではあったもののバトンパスを無難にこなす。しかし西田の猛追むなしく、広がってしまった前3チームとの差は埋まらず、42"86の4位でのフィニッシュ

となってしまった。

今回は残念な結果に終わってしまったが、逆に考えればバトンパスの是正によってまだ伸びしろが存在するという点でもある。今回の結果を十分に吟味した上で次の七大戦に向けてしっかりとチームづくりをしてほしい。

13:55 女子4×100mRm 決勝

3レーンに久保木(1年)-清水(4年)-高山(3年)-日下(4年)の走順で出場。国公立戦以降走力のある新チームの結成を試み、リレーメンバー争いを経て新人・久保木を加え走順も模索を重ねた。チームとして力を注いできたリレーで是非ともその練習の成果が発揮されたい。

号砲とともに1走・久保木が勢いよくスタート。持ち前の伸びやかな走りを見せ、他の3校の速い1走から若干遅れを取りつつもバトンゾーン付近でうまく加速に乗り、2走・清水へスムーズなバトンパス。無事にバトンを受け取った清水は持ち前の爆走力を発揮し、たちまち6レーンの群馬大を抜き、4レーンの埼玉大との差もぐんぐん縮める。そのままバトンゾーンにさしかかるが、3走高山の加速が勢い余り、清水がそれに追い付かない形で危うくラインを超えそうになる。しかし何とか無事にバトンの受け渡しはなされ、高山はバネを生かして力走し学芸大・埼玉大との差をじりじりと縮め、バトンは4走・日下へ。バトンをもらう際にやや減速してしまうが、その後日下は危なげなくスピードに乗る。群馬大を大きく離しつつ埼玉大との差を少々縮め52"63の3着でフィニッシュ。

1着の学芸大とは丁度3"の差をつけられるも、昨年の七大戦・今年の国公立戦での52"68から0"05上げたチームベストを記録。着実な進歩を見せた。まだまだバトンパスの練習が不十分であり、各自の走力アップに合わせた受け渡しの工夫・改善が求められる。各

人に勝負強さが備わり、希望に溢れた陣容であることは間違いない。バトン繋ぎでの反省を伸びしろと捉え、七大戦以降の活躍に期待したい。

14:25 男子5000m 決勝

東(2年)、山田(2年)の出場。東は最近スピードがついてきており今大会ではその成果を期待したいところ。一方の山田は1500mに続くこの日2本目のレース。天候は晴れ、湿度が高く、蒸し暑い中でのスタートとなった。序盤からならみ合いのレースが展開され、集団は殆ど崩れない。1000m、2000mの通過はそれぞれ3'10"、6'38"。中盤から徐々にペースが上がり、4000mの時点で、学芸大の2人と東の計3人が先頭集団を作り、山田がややあけられて4番手。試合を動かしたのは東。4600m通過に入る前にスパートをかける。学芸大の2人も追うが、逃げ切った東が優勝。記録は15'52"66。山田は1500mの疲れから積極的なレース展開が出来ず、16'09"68の4位でフィニッシュ。

東はこの大会で手ごたえをつかんだようだ。また、山田も2本目のレースという厳しい状況でよく点を取ってくれた。七大戦での両選手の活躍に期待したい。

15:10 女子3000m 決勝

杉浦(1年)、立岡(1年)の出場。気温と湿度が高く、特に長距離には辛いコンディションだった。両選手とも大学ではこれが2試合目のレースとなる。

杉浦は最初の400mを85"、1000mを3'39"で通過し、第一、第二集団に大きく離されるも、第三集団の二番手につく。しかし1600m辺りから遅れだし、以降は粘りのレースが続き、結局11'31"62の4位でゴール。立岡はスタートから最後尾になってしまい、400mを91"、1000mを3'54"で通過、12'17"52の5位でゴール。二人にとってデビュー戦である1ヶ月前の国公立戦から杉浦は9秒、立岡は5秒ほど更

新した。

二人ともまだ一年生ながらしっかり得点を稼ぎ、チームに貢献した。2,3年生は女子が少なく心配されていたが、今年は多くの女子部員がおり期待されている。次の七大戦は今回の四大戦以上に厳しいレースになると思われるが、活躍に期待したい。

15:15 男子4×400mR 決勝

四大戦のラストを飾る最後のトラック種目、男子のマイル。最も内側の3レーンに川村(4年)-大澤(1年)-水上(3年)-原(3年)の走順で出場。

1走の川村は前半から積極的に突っ込み、後半もそのままいい位置をキープ。1つアウトレーンの埼玉大のすぐ背後まで追い上げ2走の大澤にバトンを繋ぐ。そのラップは50"5。2走の大澤はいい位置でバトンを受けるも、まだ怪我が治りきっていないのか、或は400mの疲れが残っているのか全くスピードに乗れず、始めの100mで大きく遅れを取ってしまう。そのままズルズル離され、80m程の大差を付けられ戻ってくる。ラップは約55"もかかっていた。3走の水上は完全な一人旅となり、各校とも強豪揃いの厳しい顔合わせの中じわじわと離される。一周戻って来た時3位との差は約100m。54"のラップで4走の原にバトンを繋ぐ。アンカーの原は前半から上手く加速に乗るも、いかんせん前との差が大きすぎる。追い付かず離されず差を保ったまま4位でフィニッシュ。原はラップ51"と健闘したが、全体のタイムは3'31"85であった。

終わってみれば前のレースを走ったOP参加の中距離チームに負けるといふ大変ふがない結果に終わった。

フィールド

10:00 男子走幅跳 決勝

廣瀬(4年)、西田(3年)の出場。雨の

予報から一転、暑ささえ感じられる好天のなか競技は行われた。廣瀬は足の怪我から三段跳は避け、本競技のみの出場。西田は七大戦も見据え、あえて練習量を落とさずこの試合に臨むが、どう出るか。

廣瀬は一跳目、良い跳躍を見せるもファール。二跳目も惜しくもファールとなったところで足に限界が訪れ、その後はパス。残念ながら記録なしに終わった。西田は調整不足がたたってか、跳躍に本来のキレがない。それでも本数を重ねるごとに徐々に調子を取り戻しトップエイトには残るが、その後は記録を伸ばせず、6m41の5位に終わる。以上により本校の得点は2点であった。調整不足に悩まされ実力を出し切ることが出来なかった両選手だが、2週間の調整を経て七大戦では本来の実力で大活躍してくれることを願う。

10:00 女子走幅跳 決勝

大久保(4年)、高山(3年)の出場。両者共に同程度の記録の相手がいってパフォーマンス次第で順位が変わる状況であった。

大久保は100mにも出場したため2跳目をパスしたが、それ以降は助走のスピードが上がった。相変わらず助走が安定せず踏み切り板手前から踏み切るもつたいない跳躍が多かったが、段々と記録を上げ5跳目に4m37を跳んだ。大久保は足合わせの練習をするだけですぐに自己ベストが更新出来るだろう。今後は走幅跳にも力を入れてほしい。高山は最近走力が順調に上がっていて今日こそは5mジャンプが期待された。しかし4m後半のジャンプを連発したものの記録は6跳目の大学ベストである4m90で5m越えは次回に持ち越しとなった。3跳目がかかなりいい跳躍だったのだがファールになってしまったのが悔やまれる。結果、高山が3位、大久保が5位だった。

10:00 男子円盤投 決勝

原(3年)、片山(1年)の出場。早朝の雨のため、10時の競技開始時にはほどよく涼しい状態であった。投擲種目の中では一番最初の種目であり、ここで士気を上げ後の競技につなげたいところであった。

原は始めは上手く調子を出せずファールを連発するが、なんとか軌道を修正していった。しかし、自身のベストの記録には今一つ及ばず、最終的には24m81の6位だった。一方片山は終始前週出した自己ベストに近い水準の投擲をし、5投目に27m74をマークして5位であった。

2人とも健闘し、この種目で3点を獲得したが、周りのレベルの高さと比べると見劣りがする試合であった。原は安定性、片山は回転や肩の振りなどの改善すべき点を直し、七大戦に臨んでほしい。

10:00 女子円盤投 決勝

高橋(M1)、楠木(4年)の出場。2人とも円盤投は全くの未経験だが、6点制になり6位まで点数が入るようになったこの大会で、1点も取りこぼさないために競技に臨んだ。

高橋は投げるとき上から叩きつけてしまう癖があったが、即興ではなかなか修正できず3投目までの記録は13m04であった。記録を残すことが目標であったのでここで高橋は専門種目に備えるため競技を切り上げた。楠木は円盤の軽さに戸惑いサークル内に留まなかったり、扇形の内側に落とせなかったりとファールを連発するが、3投目には18m36の記録を残し、4番で後半3投に臨んだ。後半では学芸大の選手に抜かれてしまい、結局楠木が18m36の5位、高橋が13m04の6位であった。

2人とも専門種目の前によくやってくれた。チームの順位にこだわるならば、今回のように不恰好でも点数を稼ぎにいくがめつさをもち続けてほしい

ところである。

10:20 男子棒高跳 決勝

原(3年)、土居(2年)の出場。風はほとんど無く、日差しも無い、絶好のコンディションでの競技であった。

競技は2m80からの開始。原は、これを1跳で跳んで記録を残す。しかし、同時進行の対校円盤投にも出場していたため、しばらく棒高跳のピットを空けてしまい、次の跳躍が3m60の2ラウンド目からとなってしまう。自己ベストを上回るこの高さに、果敢に挑戦し、2跳目ではいい動きを見せるも、越えることはできずここで試技を終え、3m60の5位タイとなった。

土居も同じく2m80から、短助走で記録を残しにかかる。1跳目にまさかの失敗をしたが、2跳目で危なげなくクリア。3m60までパスをすると、これを1跳目で、小さくまとまりながらもクリア。続く3m80は、1跳目にポールをうまくボックスに差し込めず失敗。2跳目では、やはり小さくまとまった跳躍ながらもクリアした。4m00にバーが上がると、一段階ポールを硬いものに替えるが、うまくポールをコントロールできずに、結局3跳とも中途半端な跳躍となり、3m80の4位で試技を終えた。

七大戦へ向け、原は振り上げ技術の向上、土居は助走スピードと踏切の強化という課題が急務である。

12:30 男子砲丸投 決勝

寺島(4年)、平山(1年)の出場。予報では雨が降るといわれていたが、時折日が照る曇天であった。気温が30度にのぼらなかったものの、大変蒸し暑い環境での競技となった。今回、出場選手が6名だったため、上の順位を目指し、1点でも多く得点する姿勢が求められた。

寺島は積極的に投げにいったが、投げる際に腰がうまく使いきれない。3投の試技終了時点で9mを超えられず、

8m91で5番となった。4投目に9mを超えたが、5投目、6投目で記録を伸ばすことができず、最終的に9m01で5位となった。一方、平山は投げが安定しなかった。投げる際に溜めができていないため、腰の回転を利用できず、砲丸の突き出しに勢いが感じられなかった。結局6投目終了での記録は7m91で、6位となった。

寺島はハンマー投が専門であり、砲丸投の練習にあまり時間が割けず、戦いづらい試合となった。平山は砲丸投専門であるので、もっと砲丸投に対する意欲とやる気を出すべきであり、練習を重ね、全身を使った投げを習得することが必要である。

12:30 女子砲丸投 決勝

楠木(4年)の出場。楠木にとって待ちに待った今季初の砲丸投の対校戦であったが、最近の練習では思うような投擲ができておらず、うれしさと不安が入り混じる中での試合となった。

競技が始まってみると、楠木は最近の練習での不調とは裏腹に練習投の立ち投げから7m50近い投擲を見せ、2投目で記録を8m台にのせた。が、その投げは1投ごとに不安定であった。4番の記録で後半3投に進み、4投目には辛くも8m35に記録を伸ばしたが、その後は勢いを失い、結局4投目の8m35で4位であった。

最近の練習と比べるとよい投擲であったが、七大戦への布石という意味では今一つの記録であった。楠木は2シーズンずっと8m台に終わっているだけに、七大戦では8m台の壁をぶち破ってほしい。

13:30 男子走高跳 決勝

荒井(4年)、坂本(3年)の出場。対校選手は当初予定していた地子(4年)に代わり荒井の出場となった。

心配された雨もなく、試合としてはまずまずの天候。荒井は国公立戦で自己ベストの1m65を跳び、好調の様子

を見せている。坂本も同大会で1m70を跳び、調子を取り戻しているといえる。他校の選手に実力者がそろう中、公式練習が1m70と1m85となりハイレベルな試合が予想された。荒井は1m55からの跳躍。自己ベストの1m65は跳ぶことができなかったが、1m60までを確実に成功させ、実力が安定してきたといえる。坂本は1m60から競技を開始し、余裕の跳躍を見せ1m70まで1回で成功。続く1m75は1回目を失敗したものの、2回目の跳躍ではうまくバーをクリアした。結果、荒井が記録1m60で7位、坂本が記録1m75で6位となった。今回は他校のレベルが高く、上位入賞は難しい状況であったが、2mを超える跳躍を目にして刺激を受けたに違いない。両選手とも調子を上げてきているのは確かで、今後の活躍が期待される。七大戦ではベストを更新して是非得点争いに絡むような跳躍を見せてほしい。

13:40 男子三段跳決勝

定金(3年)、川原(1年)の出場。天候は晴れで、やや体力を消耗しやすいものの、追い風も吹き、記録を狙うにはまずまずのコンディションだった。

定金ははじめ助走こそ合わないものの、ジャンプ自体は良く、記録を残しトップエイトに残った。調整した後、5跳目に自己ベストとなる、また関カレB標準を切る14m12のジャンプを見せ、2位となった。川原は1跳目に13m16の記録を残すが、左足首の痛みや全身の疲労からその後は記録を伸ばせず、5位に終わった。

定金はホップの改善によって、七大戦では更なる記録の伸び、A標準の突破を期待したい。川原は体力、スピードをつけ、関カレB標準突破を目指してほしい。

14:00 男子やり投 決勝

谷(4年)、原(3年)の出場。谷は去年に続いての優勝、原は自己ベストを伸

ばして少しでも上位につくことが期待された。競技場には適度な風が吹き涼しく、曇りで日差しも弱く投げやすい環境だった。原はこの競技の前に出場した円盤投や棒高跳の影響をどれだけ残さず投擲ができるかが注目された。

谷は2投目に59m83の気合いのこもった一投で1番につき、その後も気持ちよい投擲をみせたが記録は伸びなかった。しかし2投目の記録59m83で1位を守りきって堂々の連覇を果たした。原も谷の流れに乗り前半3投から自己ベストに迫る投擲を見せた。その勢いを最後まで保ち6投目には自己ベストとなる43m39を投げ7位であった。

両選手には七大戦に向けてより調整を重ね、自己ベストの更新とともに多種目に渡る活躍を期待したい。

14:00 女子やり投 決勝

高橋(M1)、楠木(4年)の出場。2人ともやり投の選手ではないが、穴をつくらないためにエントリーした。2人ともこのやり投が3種目目の競技であったが、自分の専門種目は終えており、何の気兼ねもなく競技に臨んだ。

高橋は国公立戦では15m15に終わっていたが、今回は円盤投も踏まえてか叩きつける癖が改善されていた。特に後半3投では安定して15m以上の投擲を見せ、結果は17m23の6位であった。楠木も国公立戦より安定した投擲を見せ、3投目には自己ベストとなる23m13を記録し群馬大の選手を抑えていた。しかし、後半で逆転されてしまい、最終的には23m13で5位であった。

これからの対校戦では院生の高橋の助けなしで投擲種目を埋めなくてはならない。学部生に専門ではない種目への積極的な姿勢を期待したい。

1.5 試合結果

第34回国立四大学対校陸上競技大会

第16回国立四大学対校女子陸上競技大会

於 江東区夢の島陸上競技場 (H21.7.4)

男子 100m 決勝 (-1.2)

1	安部文隆	群大	10"93
2	高橋修平	東学大	11"15
3	櫛引亮	埼大	11"15(着差あり)
4	栗原諒	東学大	11"33
5	岩崎将大	群大	11"33(着差あり)
6	鈴木英稔	埼大	11"34
7	春日慶輝	東大	11"42
8	都井紘	東大	11"51

男子 200m 決勝 (+3.0)

1	安部文隆	群大	21"67
2	鈴木大地	東学大	21"84
3	長島貴之	東学大	22"07
4	伊藤裕一郎	埼大	22"07(着差あり)
5	櫛引亮	埼大	22"33
6	春日慶輝	東大	22"53
7	朝比奈達也	群大	22"91
8	都井紘	東大	23"08

男子 400m 決勝

1	鈴木大地	東学大	49"24
2	松野大樹	東学大	49"90
3	神瀬龍平	埼大	50"25
4	坂本光	埼大	51"50
5	大澤渉	東大	52"05
6	川村知正	東大	52"45
7	谷田彪	群大	52"59
8	降籟啓丞	群大	52"99

男子 800m 決勝

1	古井啓介	東学大	1'56"42
2	清沢創一	東学大	1'56"49
3	小林弘樹	群大	1'56"74
4	渡邊拓也	東大	1'57"13
5	田山俊希	群大	1'58"55

6	坂井啓一	東大	1'58"89
7	稲葉伸正	埼大	2'02"53
8	青山裕之	埼大	2'06"53

男子 1500m 決勝

1	山田竜也	東大	4'04"36
2	星野慎也	群大	4'04"89
3	岡田達明	東学大	4'06"02
4	磯田秀弥	東学大	4'09"06
5	池田剛志	東大	4'10"37
6	稲葉伸正	埼大	4'14"36
7	石田真規	群大	4'17"43
-	桶田武	埼大	DNS

男子 5000m 決勝

1	東大貴	東大	15'52"66
2	福井雅俊	東学大	15'53"71
3	斉藤隼人	東学大	15'56"58
4	山田竜也	東大	16'09"68
5	三澤秀匡	群大	16'19"51
6	大竹良徳	群大	16'58"77
-	星雄介	埼大	DNS
-	西崎亮	埼大	DNS

男子 110mH 決勝 (+1.6)

1	酒谷彰一	東大	15"07
2	志田望	東学大	15"07(着差あり)
3	今野拓也	東学大	15"18
4	高野大樹	埼大	15"57
5	清水堯之	群大	15"68
6	増本健太郎	東大	16"09
-	武井隼児	群大	DNS

男子 400mH 決勝

1	小金沢篤	東学大	53"86
2	岩木佑太	群大	54"79
3	清水堯之	群大	55"18
4	山田勝也	埼大	55"47
5	高木海平	東大	56"41
6	志田望	東学大	56"90
7	赤木裕	東大	56"90
8	田中勇孝	埼大	57"12

男子 3000mSC 決勝

1	三澤秀匡	群大	9'41"15
2	山崎貴裕	東大	9'45"17
3	三上哲史	東学大	9'56"14
4	青木佑樹	東大	9'58"45
5	牛越晴生	東学大	9'59"55
6	須貝顕一	埼大	10'05"85
7	山ノ内拓実	群大	10'37"43
8	樋上龍矢	DNS	

男子 5000mW 決勝

1	村上格	東学大	21'23"90(NGR)
2	山口貴史	東学大	23'29"11
3	早川晃司	東大	23'31"29
4	下田聖典	群大	25'27"59
5	北沢太郎	東大	27'50"64
-	今川智博	埼大	DSQ

男子 4 × 100mR 決勝

1	東学大	41"47
2	群大	41"47(着差あり)
3	埼大	42"55
4	東大	42"86

(中嶋-都井-春日-西田)

男子 4 × 400mR 決勝

1	東学大	3'16"84
2	埼大	3'20"44
3	群大	3'20"97
4	東大	3'31"85

(川村-大澤-水上-原)

男子走幅跳決勝

1	福田雄介	群大	6m97(+0.8)
2	岩崎将大	群大	6m96(+0.3)
3	伊藤裕一郎	埼大	6m65(-0.1)
4	山田一輝	埼大	6m41(+0.3)
5	西田昂広	東大	6m41(+0.3)
6	今野拓也	東学大	6m26(+1.0)
7	横山巧機	東学大	6m10(+0.9)

- 廣瀬彬 東大 NM

男子三段跳決勝

1	<u>山田一輝</u>	埼大	14m18(+2.2)
2	<u>定金駿介</u>	東大	14m12(+1.2)
3	<u>中嶋祐介</u>	東学大	13m89(+1.1)
4	<u>横山巧機</u>	東学大	13m64(+0.4)
5	<u>川原拓也</u>	東大	13m16(+0.8)
-	<u>関亜斗利</u>	群大	NM
-	<u>福田雄介</u>	群大	NM
-	<u>遠藤哲哉</u>	埼大	DNS

男子走高跳決勝

1	<u>石塚理博</u>	東学大	1m90
1	<u>松山直輝</u>	東学大	1m90
3	<u>榊田明弘</u>	埼大	1m85
4	<u>萩原健太</u>	群大	1m80
5	<u>関亜斗利</u>	群大	1m75
6	<u>坂本智</u>	東大	1m75
7	<u>荒井博貴</u>	東大	1m60
-	<u>遠藤哲哉</u>	埼大	NM

男子棒高跳決勝

1	<u>田中充</u>	群大	5m00(NGR)
2	<u>萩原健太</u>	群大	4m20
3	<u>谷村健宏</u>	東学大	4m10
4	<u>土居富裕</u>	東大	3m80
5	<u>原湖楠</u>	東京大	2m80
6	<u>今野拓也</u>	東学大	2m80

男子砲丸投決勝

1	<u>藤原康隆</u>	東学大	14m09
2	<u>田村祐太</u>	群大	11m94
3	<u>藤本深平</u>	群大	10m89
4	<u>石川淳太郎</u>	東学大	9m69
5	<u>寺島孝明</u>	東大	9m01
6	<u>平山蒼太</u>	東大	7m91

男子円盤投決勝

1	<u>田村祐太</u>	群大	36m01
2	<u>小島聡</u>	東学大	34m52
3	<u>藤原康隆</u>	東学大	34m12

4	<u>藤本深平</u>	群大	30m69
5	<u>片山卓也</u>	東大	27m77
6	<u>原湖楠</u>	東大	24m81

男子やり投決勝

1	<u>谷彰一郎</u>	東大	59m83
2	<u>佐川太一</u>	群大	53m81
3	<u>石川淳太郎</u>	東学大	53m24
4	<u>中嶋祐介</u>	東学大	51m49
5	<u>遠島隆行</u>	埼大	47m32
6	<u>井汲大河</u>	群大	45m05
7	<u>原湖楠</u>	東大	43m39

男子トラック順位

1	東学大	100
2	群大	53
3	東大	48
4	埼大	30

男子フィールド順位

1	群大	51
2	東学大	49.5
3	東大	26.5
4	埼大	19

男子総合順位

1	東学大	149.5
2	群大	104
3	東大	74.5
4	埼大	49

女子100m決勝(-0.4)

1	<u>川口夢加</u>	東学大	12"43
2	<u>中嶋はるみ</u>	埼大	13"04
3	<u>菱沼美穂</u>	埼大	13"29
4	<u>斉木睦</u>	東学大	13"55
5	<u>清水蘭</u>	東大	13"58
6	<u>大久保渥子</u>	東大	13"96

女子200m決勝(+1.8)

1	<u>川口夢加</u>	東学大	25"23
2	<u>五味未菜子</u>	東学大	25"77

3	清水蘭	東大	27"90
4	堀越彩香	東大	28"22

女子400m決勝

1	上森加奈子	埼玉大	1'00"28
2	鈴木優香	東学大	1'01"13
3	堀越彩香	東大	1'04"22
4	遠藤裕希	東学大	1'05"33

女子800m決勝

1	大友稚弘	東学大	2'13"30(NGR)
2	日下桃子	東大	2'18"65
3	上森加奈子	埼玉大	2'24"55
4	安藤綾香	群大	2'30"53
5	植野沙耶	群大	2'32"43
6	浜松由莉	東大	2'32"88
-	廣江早紀	東学大	DNS
-	黒澤理実	埼玉大	DNS

女子1500m決勝

1	田島香織	東学大	4'44"78
2	角入千明	東学大	5'01"05
3	狩野温子	群大	5'09"43
-	鈴木恵美里	東大	DNS
-	日下桃子	東大	DNS

女子3000m決勝

1	土井友里永	東学大	10'05"80
2	狩野温子	群大	11'04"57
3	永田真理	群大	11'10"90
4	杉浦奈美	東大	11'13"62
5	立岡美夏子	東大	12'17"52
6	山村稚香	東学大	12'19"70

女子100mH決勝(+1.1)

1	中嶋はるみ	東学大	14"97
2	久保木結	東大	15"32
3	田澤愛	東学大	15"50
4	岡野愛美	東学大	15"90
5	高橋翠	東大	16"86

女子4×100mR決勝

1	東学大	49"63
2	埼玉大	51"42
3	東大	52"63
(久保木-清水-高山-日下)		
4	群大	56"06

女子走幅跳決勝

1	古口夕貴	東学大	5m33(±0.0)
2	鶴生川早紀	東学大	4m92(+1.5)
3	高山花子	東大	4m90(-0.3)
4	小島綾華	埼玉大	4m76(+1.0)
5	大久保渥子	東大	4m24(-0.7)

女子砲丸投決勝

1	富沢舞子	埼玉大	11m32
2	河原真弥	東学大	9m79
3	桑原渚	群大	9m15
4	楠木千尋	東大	8m35
-	杉浦奈実	東大	DNS
-	鶴生川早紀	東学大	DNS

女子円盤投決勝

1	富沢舞子	埼玉大	41m45
2	田澤愛	東学大	26m48
3	桑原渚	群大	26m38
4	古口夕貴	東学大	21m55
5	楠木千尋	東大	18m36
6	高橋翠	東大	13m04

女子やり投決勝

1	岡野愛美	東学大	37m18
2	山崎芽衣	東学大	33m34
3	桑原渚	群大	31m62
4	植野沙耶	群大	25m69
5	楠木千尋	東大	23m13
6	高橋翠	東大	17m23

女子トラック順位

1	東学大	65
2	東大	33
3	埼玉大	29
4	群大	18

女子フィールド順位

1	東学大	35
2	東大	15
2	群大	15
2	埼大	15

女子総合順位

1	東学大	100
2	東大	48
3	埼大	44
4	群大	33

2 2009年度部内5傑 2009.7.5 現在

男子 100m

1	都井紘 (4年)	11"22(+0.0)	5.31
2	春日慶輝 (2年)	11"23(-0.3)	4.5
3	中嶋毅彰 (4年)	11"42(+0.2)	5.31
4	舘島一樹 (2年)	11"61(-0.3)	5.31
5	定金駿介 (3年)	11"68(-0.2)	5.31

男子 200m

1	増本健太郎 (3年)	22"99(+0.0)	5.31
2	都井紘 (4年)	23"70(-0.5)	5.6
3	片島拓弥 (4年)	24"00(+0.1)	6.7
4	水上雄太 (3年)	24"14(-0.4)	5.31

男子 400m

1	大澤涉 (1年)	51"35	5.2
2	坂井啓一 (4年)	51"47	5.6
3	定金駿介 (3年)	51"50	6.7
4	川村知正 (4年)	51"57	5.2
5	原湖楠 (3年)	52"08	5.2

男子 800m

1	坂井啓一 (4年)	1'56"85	5.31
2	渡邊拓也 (3年)	1'57"13	7.4
3	須田遊人 (4年)	2'01"46	7.4
4	川口祐貴 (4年)	2'01"94	5.6
5	園部竜也 (3年)	2'01"99	6.28

男子 1500m

1	東大貴 (2年)	4'04"30	5.31
2	山田竜也 (2年)	4'04"36	7.4
3	池田剛志 (2年)	4'09"18	5.6
4	竹内真裕 (2年)	4'10"90	7.4
5	斉藤瞬也 (3年)	4'14"14	6.28

男子 5000m

1	竹俣直道 (3年)	14'45"00	4.5
2	山田竜也 (2年)	15'03"08	5.3
3	東大貴 (2年)	15'07"90	6.14
4	宮野健司 (2年)	15'15"92	4.5
5	山崎貴裕 (4年)	15'23"34	6.14

男子 10000m

1	宮野健司 (2年)	32'04"65	7.5
---	-----------	----------	-----

男子 ハーフマラソン

1	山田健太郎 (4年)	1:11'06	5.24
2	宮野健司 (2年)	1:12'49	4.12
3	中島圭一 (3年)	1:16'11	4.12

男子 110mH

1	酒谷彰一 (3年)	15"07(+1.6)	7.4
2	増本健太郎 (3年)	15"96(-0.2)	5.2
3	江間輝裕 (3年)	16"28(+0.0)	5.31
4	高木海平 (2年)	16"40(+0.0)	6.7
5	原湖楠 (3年)	19"21(+0.1)	5.3

男子 400mH

1	高木海平 (2年)	56"41	7.4
2	酒谷彰一 (3年)	56"57	7.4
3	赤木裕 (3年)	57"06	5.6
4	上松祐太 (1年)	57"07	5.23
5	江間輝裕 (3年)	57"72	7.4

男子 3000mSC

1	山崎貴裕 (4年)	9'45"17	7.4
2	青木佑樹 (2年)	9'58"45	7.4
3	野村圭吾 (4年)	10'05"02	4.5
4	庄司健太 (3年)	10'14"09	4.5
5	池田剛志 (2年)	10'19"11	5.3

男子 5000mW

1	早川晃司 (3年)	23'31"29	7.4
2	北沢太郎 (5年)	27'50"64	7.4

男子 10000mW

1	早川晃司 (3年)	51'26"60	5.17
2	北沢太郎 (5年)	52'26"73	5.17

男子 走幅跳

1	西田昂広 (3年)	6m83(+0.1)	5.31
2	廣瀬彬 (4年)	6m44(+0.3)	4.5
3	定金駿介 (3年)	6m03(?)	7.4
4	浅沼達也 (4年)	6m00(+0.0)	5.31
5	原湖楠 (3年)	5m79(+0.1)	5.2

男子 三段跳

1	廣瀬彬 (4年)	14m38(+1.0)	5.16
2	定金駿介 (3年)	14m12(+1.2)	7.4
3	西田昂広 (3年)	13m84(-0.5)	5.31
4	川原拓也 (1年)	13m16(+0.6)	7.4

男子 走高跳

1	坂本智 (3年)	1m75	7.4
2	荒井博貴 (4年)	1m65	5.31
3	原湖楠 (3年)	1m40	5.2

男子 棒高跳

1	土居富裕 (2年)	3m90	5.31
2	原湖楠 (3年)	3m40	5.31
3	黄晓南 (3年)	3m30	5.31

男子 砲丸投

1	原湖楠 (3年)	9m38	5.2
2	寺島孝明 (4年)	9m31	5.31
3	平山蒼太 (1年)	7m91	7.4

男子 円盤投

1	谷彰一郎 (4年)	29m48	5.24
2	片山卓也 (1年)	27m84	7.4
3	原湖楠 (3年)	27m44	4.5

男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (4年)	40m77	5.3
---	-----------	-------	-----

男子 やり投

1	谷彰一郎 (4年)	62m59	5.17
2	千葉伸宏 (3年)	52m55	4.5
3	原湖楠 (3年)	43m39	7.4

男子 十種競技

1	原湖楠 (3年)	4969点	5.2-3
---	----------	-------	-------

女子 100m

1	清水蘭 (4年)	13"29(+0.1)	5.31
2	高山花子 (3年)	13"67(+0.1)	5.31
3	久保木結 (1年)	13"92(+0.0)	5.31
4	大久保渥子 (4年)	13"96(-0.4)	7.4
5	鈴木理香 (1年)	14"07(+0.3)	7.4

女子 200m

1	清水蘭 (4年)	27"90(+1.8)	7.4
---	----------	-------------	-----

女子 400m

1	日下桃子 (4年)	1'00"65	5.31
---	-----------	---------	------

女子 800m

1	日下桃子 (4年)	2'18"65	7.4
2	浜松由莉 (1年)	2'32"08	5.31
3	鈴木恵美里 (2年)	2'41"51	5.31

女子 3000m

1	杉浦奈美 (1年)	11'31"62	7.4
2	立岡美夏子 (1年)	12'17"52	7.4

女子 110mH

1	久保木結 (1年)	15"32(+1.1)	7.4
---	-----------	-------------	-----

女子 走幅跳

1	高山花子 (3年)	4m90(-0.3)	7.4
2	大久保渥子 (4年)	4m24(-0.7)	7.4

女子 砲丸投

1	楠木千尋 (4年)	8m35	7.4
---	-----------	------	-----

女子 円盤投

1	楠木千尋 (4年)	18m36	7.4
---	-----------	-------	-----

女子 やり投

1	楠木千尋 (4年)	23m13	7.4
---	-----------	-------	-----

女子 ハンマー投

1	楠木千尋 (4年)	27m05	5.17
---	-----------	-------	------

3 自己記録更新者一覧 2008.6.1~7.5

6/7 筑波大競技会 (つくば)

400m	定金駿介 (3年)	51"50
------	-----------	-------

6/14 東海大長距離記録会 (湘南)

5000m	中島圭一 (3年)	16'27"59
5000m	鳶田洗一 (3年)	16'08"09

6/28 日大競技会 (桜上水)

800m	近藤堯之 (3年)	2'02"17
800m	園部竜也 (3年)	2'01"99
1500m	渡邊駿 (1年)	4'19"54
円盤投	片山卓也 (1年)	27m84

7/4 四大戦 (江東区夢の島陸上競技場)

100m	鈴木理香 (1年)	14"07(+0.3)
400m	近藤堯之 (3年)	54"68
800m	日下桃子 (4年)	2'18"65
1500m	竹内真裕 (2年)	4'09"35
1500m	山田竜也 (2年)	4'04"36
5000m	渡邊陽大 (1年)	16'42"52
110mH	酒谷彰一 (3年)	15"07(+1.6)
400mH	江間輝裕 (3年)	57"72
3000mSC	山崎貴裕 (4年)	9'45"17
5000mW	早川晃司 (3年)	23'31"29
三段跳	定金駿介 (3年)	14m12
やり投	原湖楠 (3年)	43m39
やり投	楠木千尋 (4年)	23m13

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

7/4(土)に、夢の島陸上競技場にて行われました四大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの方のご氏名を卒業年度順にご報告致します。(敬称略)

1979 卒 中谷敬二
 1983 卒 八田秀雄
 1994 卒 工藤麻衣子
 2005 卒 藤田靖浩
 2008 卒 片山芳明
 2008 卒 月崎竜童
 2008 卒 持永新
 2009 卒 金尾太郎
 2009 卒 梶井駿介
 2009 卒 松本光一

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 七大戦
 7/25(土) ハンマー投対校 + OP の部
 大井埠頭陸上競技場
 同日 OB・OG 懇親会開催

駒場キャンパスコミュニケーションプラザ南館

7/26(日) 対校の部 国立競技場

- 一橋戦 9/12(土)
 町田市立陸上競技場
- 京大戦 10/3(土)
 駒場グラウンド

4.3 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:坂井啓一

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-17-14 ファーバング 203

TEL : 090-5561-4320

E-mail : shumu@uttff.org

* この部便りは下記 web ページでもご覧になれます *

<http://www.uttff.org/>

* 部便り郵送不要の方はお手数ですが学生主務までご連絡下さい *

主務 坂井啓一

文責 : 柴田渥史